

# SSKW

# 海から海へ

No. 42 2016. 8. 24 【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> [office@umi.or.jp](mailto:office@umi.or.jp)



さかな Fishes 455x530 1987 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

## ベトナムへの旅

阿部愛子

ベトナムのハノイへ行ってきました。台湾、マレーシアに次いでアジアを旅する訳は家人の思いがあるからです。彼は大学在職中に留学生と接するうち、退職したら彼らの国を訪ねてみたいとかねがね口にしていました。今回は家族とも交流があったベトナム人の〇〇さんや△△さんを思い出しながら、3人で4泊5日さまざまな体験をしてきました。

1日目。夜も明けきらぬ4時起床。瑞木はいつも通りに細かく猫たちの世話をし、駅前から羽田空港行きのバスに乗りました。飛行機は羽田出発8時55分、ハノイの玄関ノイバイ空港には12時15分到着。5時間の短い搭乗です。(時差1時間)

空港からの道は広々としてのどかな田園風景ですが、町に近づくにつれ車の周りにはぶつかりそうなバイクや割りこむ他の車でいっぱいです。この光景を見るたびに、「アジアにきた！」といつも興奮します。「アジアの国々では、どうして急ぐのかな？」と思うのは私だけでしょうか。「私も東京では忙しい毎日を過ごしているのにね」と少し反省しながら、私たちが旅行者という非日常の状況だからそう見えるのかなと考えたりしているうちに、ドライバーは狭い道路をうまい運転で難なく通り抜け、車はホテルに到着です。



陽気なドライバーさん

娘は旅を楽しみにしています。日常は9時から16時まで高齢者施設の家事サポートの仕事。その他の休日は家事もこなしています。働き者です。掃除、買い物、パン作り、2匹の愛猫の世話など、からだをこまめに動かし、全部し終えたあとの表情は満足感でいっぱいになっています。でも、旅に出ればそのような日常から開放されます。こころがゆったりするのを楽しみ喜ぶのは、日常をしっかり働いているからですね。

私たちは町で通りがかりに、娘の仕事場の方々に声

をかけられるときがあります。「あら、瑞木ちゃん、こんにちは！今日はお出かけ？」「あら、お母様ですか？」「瑞木ちゃんにお世話になっています。」「いつも仕事をきちんとして、私なんか休み明けは疲れていて真面目にできないときも、瑞木ちゃんは毎日同じように仕事をしていて、瑞木ちゃんを見てるとすごいなあって。私もがんばらなくっちゃって思うんですよ。」どの方も大体このように話されます。

娘は臨機応変が難しい自閉的な傾向があります。自分の体調に合わせて行動することより、決められたことをするのが上手なのです。それが周りの方々には驚異的に見えるのでしょうか。「少しずる休みしても大丈夫」と私が言ってもそれができないのが娘なのです。だから、ときどき家族が娘の疲れ具合を察しなければなりません。そして、たまには連続休暇を取り長旅をするという訳です。彼女は夫と私があればこれ考えるそばにいて、インターネットで航空券やホテルの予約が完了するまでじっと待っているのですが、いざ予定が決定すると真剣な眼差しでカレンダーに丁寧に書き込むことが楽しみの始まりなのです。



バイクの洪水を横目にスイスイと

さて、町中の宿は喧噪と隣り合わせ。ハノイ旧市街は目と耳と鼻を襲うバイクの洪水です。その中を命がけて横断する怖さは予想以上でした。娘はと思ひ顔を見るといつもの表情とさして変わりがありません。夕食をとガイドブックを片手に候補の店へと歩きます。地図の感覚がまだつかめないまま目当ての店を通り過ぎてしまい、別の店に入りました。緊張と疲れがどっと押し寄せたのか、家人はぐったりしていますが、瑞木と私は元気です。パクパクと肉料理を食べた後にはフランス仕込みのデザートのパディングもチョイス。どれにも野菜がどっさりついた料理はベトナムの人々の体型を見れば一目瞭然、健康的なものばかりです。まずは味覚からベトナムに魅せられつつ、バイクはとでも大変だけど、親密な気持ちが湧いてきました。旅の一日目は瑞木の繊細かつ堂々と物怖じしない態度や

振る舞いに教えられます。夜はガイドブックを確かめ、明日への好奇心でいっぱいにして、眠りに就きました。

2日目。今日は、娘の希望を叶えるためベトナムのお土産をたくさん手に入れる予定です。以前のように到着した空港の出発ロビーで、おみやげを購入しなければならないという焦りはなくなりました。瑞木の変化の一つです。



肉料理のお皿とフォー



これからデザート

朝から3人で張り切って町中へと繰り出します。最初は徒歩で10分のドンスワン市場へ。旧市街の狭い道を相変わらずバイクと車が私たちの歩くすぐ脇を通り過ぎていきます。バイクをよけて歩くコツを会得したらしい夫は先頭に立って、目指す方向へと2人を誘導してくれます。大体地図を見るのは彼の役目。私は最後尾で娘を見守りながら進む役。間に挟まれた娘からは同行者を信じ切っているのが分かります。



ハノイ市街

市場到着。ほしいものがなかなか見つかりません。あきらめていたところに出口の近くの店先に刺繍を施した袋がたくさん目に入りました。刺繍はベトナム女性の器用さが現れているような出来具合です。色とりどりの糸で女性の生活の一部が表現されている袋を手に入れ、なんとか笑顔になりました。刺繍といえば、画家はスウェーデン刺繍が得意です。美術館の小部屋の壁にその作品が額装されて飾ってあります。中学校は越境してS区立R中学校の特別支援学級に通学しました。その3年間刺繍の厳しい指導を受け、すばらしい作品を制作しました。私はそれをクッションに仕立てあげました。今でも使っています。その後、地域の作業所に通所し、そこでも刺繍をしました。作品はバッグやペンケースなどの小物になり販売され、僅かな工賃を受け取っていました。私が画家のセンスが光る美しい作品をもう一度作ってほしいと瑞木に頼んだことがあります。が、「やりたくない」とのこと。スウェーデン刺繍にはよい思い出がないのかなと想像し、残念な気持ちになったことが思い出されました。

次はおしゃれな市場で小物を物色購入、日本人が経営しているというカフェにも立寄りベトナムコーヒー、スイーツやバインミーというサンドイッチも賞味、蓮茶も購入。蓮茶を飲むためのバッチャン焼きの器を探しにフランスがベトナムを統治していた時代に建てられた大教会の方へ歩きます。ベトナムはコーヒーが生産されている国。町中にはたくさんのカフェがあります。旅行者も住民もゆったりとコーヒーをのんでいます。緩やかな時間が流れている場所です。そこにある空気、手作りの可愛い品々、食べ物への興味、家族と一緒にのリラックス感に溢れ、歩く娘の後ろ姿からは3人組の旅を愛しているのが伝わってきます。



大聖堂の前で



1口あとのバインミー

夜はどここの国を訪ねても必ずあるインド人が経営する料理店で夕食です。辛い食べ物が苦手だった娘はいつの頃からでしょうか、何でも食べられるようになりました。わさび、からし、唐辛子、ショウガ、ニンニク等の香辛料たっぷりの料理も大好きになりました。3才頃まで白飯と鮭、海苔しか食べませんでした。今では毎夕食時に好物のキムチをちょっぴりご飯に乗せておいしそうに食べます。牛乳も飲めるようになったのは小学校1年生の給食のときでした。担任の小林時平先生と学級みんなが励ましてくれたことが思い出されます。食べ物の幅が出るとことばの数も幅も広がってくると三越診療所で診察を受けお世話になりました小林提樹先生に教えられたことがあります。その頃どんなにそのことを望んだでしょうか。遠い昔のつらい記憶の一端です。

3日目。ハノイへ行ったらホーチミン廟へ行くと決めていました。ゆっくりホテルを出たことから長い行列に並ぶことになりましたが、その1時間に見たことがこころに残っています。私たちが並ぶ列の隣に子どもたちが何組も団体に到着します。すると係の人が出て、列の先に子どもたちを入れるのです。つまり、ここでは子どもたちが優先的に入ることが許されているのです。列の人々はその時間汗をかきながら静かに待っているのです。小学校と中学校のカウンセラーの仕事もしている私は子どもたちが大切にされているのがわかり気持ちが落ち着きます。子どもたちは自分が大事にされていると知るとき、自分を信じ大人を信じ、持てる能力を伸ばしていくと私は信じています。

ガラスケースの中のホーチミンの遺体はオレンジ色の照明により、まるでまぶしい太陽の光に照らされて横たわっているように見えます。民族の開放と独立を指導した建国の父の周りを尊敬の気持ちを胸に刻むようにして、子どもも大人もベトナム人も日本人も、人々は無言で歩き進みます。

その後、ホーチミンの家（ホーさんの家）にも行きました。2階建ての高床式住居で小さな机が一つベッドが一つの書斎と寝室が見えます。質素な生活を好んだという人柄が現れていて、不要なものを持たない潔さと美しさを目にしました。私たちはここでも生活の学びを得たように感じました。



ホーチミン廟



ホーさんの家

そこから、タンロン遺跡を見学後、ハノイで一番大きいタイ湖の畔にあるレストランを目指します。そこは「ペペ・ラ・プール」という名前の日本人シェフが経営するレストラン。シェフのマスダさんとはしばらく話をしながらランチを楽しみました。マスダさんはベトナムの子どもたちを支援するボランティアで入国後、彼らが働く場所を作りたいとの思いから店を開き、ベトナム・中華・イタリアン・和食をミックスしたようなグローバルな料理を数々提供しています。「開店3年目を迎え、20人のスタッフと苦勞もたくさんしました」と話すマスダさんからはベトナムに限らず人を愛する気持ちがたくさん伝わってきました。私たちも「海から海へ」の活動を紹介しました。湖からの心地よい風が肌に届きます。娘も穏やかに話を聴いています。風光明媚な場所に自分の理想を求めて活躍している若者にこころからの拍手を送り、店を後にしました。



マスダさんと画家の家族



好物のミートソーススパゲッティを食べる画家

夜はベトナムの伝承芸術を見るため、劇場へと歩きます。舞台は水上になっており、そこに人形劇が繰り広げられます。左手の高い場所から伝統楽器と歌が奏でられ流れてきます。人形の動きはコミカルでもあり、可愛らしくもあり、目が離せない素早さが面白くて、娘も楽しそうに見ていました。ベトナムの夜のイベントは遠い昔にころころが連れて行かれるようです。多国籍の観客は幼児のような笑みを浮かべながら出口に向かいます。



ベトナムの夜の人形劇

劇場を出ると現実に戻ります。3人は夕食を摂るためまた町を歩き、サクサクと美味しい揚げ春巻き、豚肉ハンバーグと香草を混ぜながら食べるブンチャーなど、ベトナム名物に舌鼓をうちます。ホテルまでの夜道を歩きながら、肩の凝らないこの町が体にとけ込ん

でくるように思えてきました。

4日目。夜更けに雷がとどろき目を覚ました。やはりそろそろ雨期にはいるのでしょうか。明日は町歩きをメインにのんびり過ごす予定です。雨ですと、やはり出足が鈍るのではと心配になります。

朝食後に雨が上がり外出しましたが、雨が大粒で降ってきました。近くにあるスタバックスコーヒー店へ雨宿り。1杯のカフェオレは町中カフェに比べるとすごく高い値段ですが、しかたありません。窓越しに雨を見ていると休暇のありがたさを実感します。時間に追われないことがこんなにも私たちをリラックスさせていることに、改めて気づきます。明日は帰国です。また日常をそれぞれが生きる訳ですが、こうしてよその土地に出向き、そこの空気を吸い、そこの土地の食べ物をいただき、歴史や伝承に触れ、人々と言葉を交わし、お互いを受け入れ、感謝する旅の醍醐味を味わう機会を娘と共に楽しめてよかったですと思います。

5日目。「まだ、ハノイにいたい?」と娘にたずねると「東京に帰るの。」と言います。東京には猫たちが待っています。そして、3人共それぞれの職場には同僚の方や仕事で知り合った方々が待っていてくださいます。羽田には弟夫婦が迎えに出てくれるそうです。たくさんのお土産話も旅行かばんにつめて、笑顔もお土産にして、ノイバイ空港へ。

また行きたいね、ベトナムに!

## 田中瑞木展

—ころころが会おうとき—

フロリール調布

調布市下石原3丁目45-1

2016年8月21日から

(一般公開はされません)

フロリール調布は、医療法人社団桐光会が運営する調布病院併設の介護老人保健施設です。

今回、施設からのご依頼により、田中瑞木の作品28点が施設内に展示されることになりました。

利用者の皆さんや来訪の皆さん、職員の皆さんに、日常の中で、田中瑞木の絵から良いものを感じていただければ幸いです。

田中瑞木美術館  
秋の展示作品

9月から12月までは下記の作品を展示しています。  
近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください。

油絵

スケッチ

秋のサファリパーク	八ヶ岳のキャンプファイヤー
鯉	カラーのささやき
ドライブ	ブランコ
白い花瓶のトウガラシ	秋のサファリパーク
黒い花瓶のアンズリウム	マーマレードになるよ
もみじ山のねこ	
わたしの好きなもの	
温泉	

平成28年度会費納入のお願い

平成28年度の会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

昨年度は、多くの方々からたくさんのご入金をいただきました。ありがとうございました。

年会費

正会員 3,000円以上 (活動にご参加いただけます)

協力会員 1,000円以上 (会報をご購読いただけます)

賛助会 30,000円以上 (法人様を対象としております)

寄付金 (随時お受けしております)

振込口座

①ゆうちょ振替：00110-0-684539

②銀行振込：みずほ銀行 調布支店

普通預金 8082621

口座名称 (①②とも)

特定非営利活動法人 海から海へ

平成27年度会計報告

(単位：円)

I 経常収入の部	
1. 会費収入	151,000
2. 寄付金収入	163,000
3. 受取利息	94
経常収入合計	314,094
II 経常支出の部	
1. 事業費	
(1)障がいをもつ人を中心とした芸術活動の支援と作品の公開展示	94,938
(2)障がいをもつ人を中心とした心理教育社会福祉研究と実践	0
(3)障がいをもつ人を中心とした交流の促進	0
(4)芸術、教育、心理、福祉などに関する社会教育	0
(5)障がいをもつ人とその関係者のための個別相談、教育支援、生活支援	0
(6)活動に関する広報および成果の公表	161,681
(7) (1)～(6)の事業活動のための募金	0
2. 管理費	10,904
経常支出合計	267,523
経常収支	46,571
前期繰越	918,772
次期繰越	965,343

編集後記

ある日、「絵を見せてください。」と電話がありました。市内の介護施設の職員根津さんからでした。「絵の出前をしていることを知り、ぜひ施設で展覧会をしてほしい。」と、熱いところをお願いされました。一度会場を見に出かけました。ある利用者さんはここに絵が飾られると説明を受けた後、「楽しみです。」と話されました。施設の利用者さんや職員さんは初めて画家の絵と対面されます。展覧会のタイトルは「田中瑞木展—こころとこころが出会うとき—」。明るい色彩、すばらしい構図、愛情のこもった対象など、画家の思いはきっと皆様のこころに届くと思います。待っていてくださいね。もうすぐです。(愛)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

振込口座 ゆうちょ振替：00110-0-684539

みずほ銀行 調布支店 普通預金 8082621

2016年8月24日 海から海へ No. 42

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェル  
ドゥーラ 102 特定非営利活動法障害者団体定期刊行物協会

定価 200円 無断転載禁止